

沖縄島中南部の市街地で繁殖したツミ *Accipiter gularis* とリュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* の2種について

嵩 原 建 二

(沖縄県立博物館)

Notes on two breeding birds, *Accipiter gularis* and *Pericrocotus divaricatus tegimae*, on urban area in the Southern and Central part of Okinawa I., The Ryukyus.

Kenji TAKEHARA
(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

本州では本来自然環境の豊かな場所に生息するようなハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*、オオタカ *Accipiter gentilis*、チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*、ハクセキレイ *Motacilla alba*、コゲラ *Dendrocopos kizuki*、カワセミ *Alcedo atthis* などの野鳥が市街地に適応し、大都市の市街地で「都市鳥化」していることが知られている（唐沢、1987. 川内、1997. バーダー編集部、1999など）。さらに川内（1997）は、1981年に埼玉県上尾市で、野口（1988）は東京都町田市で、土橋（1994）は東京都板橋区と、それぞれ市街地におけるツミ *Accipiter gularis* の繁殖例を報告している。

沖縄県内においては、唐沢（1992）によって、1990年に実施された全国41都市の都市鳥の繁殖状況の中で、沖縄島南部の那覇市と八重山諸島石垣島の石垣市の市街地で合計20種（帰化種2種含む）の都市鳥が報告されており、その中にツミも記録されている。

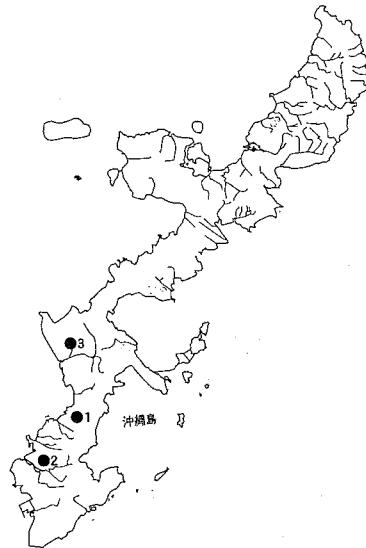
しかしながら、県内の市街地で営巣する鳥類の詳細な繁殖生態や行動についての調査報告は少なく、喜納（1993）や嶺井（1994）のイソヒヨドリ *Monticola solitarius philippensis* の例、金城（1993）や金城・瑞慶山（1996）によるシロガシラ *Pycnonotus sinensis* の例、嵩原・渡久地（1996）によるツミとイソヒヨドリの繁殖例などが知られているにすぎない。

筆者は県内におけるツミの都市鳥化を追認する観察記録と、これまでに報告されていないリュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus tegimae* の市街地における繁殖活動等に若干の知見が得られたので報告する。

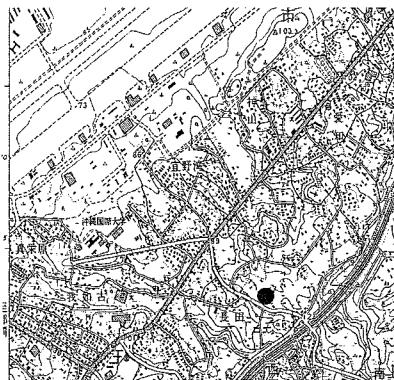
なお、県内では八重山諸島の石垣島、西表島に留鳥として生息するリュウキュウツミ *A. g. iwasakii*（三島 1962）と、沖縄島に留鳥として生息し、冬季には冬鳥としてその他の地域に飛来するとされるツミ *A. g. gularis* の2亜種が生息するとされる（日本鳥学会 2000）。したがって、本地域に生息する亜種については、日本鳥学会（2000）に従い、亜種ツミ *A. g. gularis* として扱った。

本調査の報告にあたり、営巣情報の入手に協力いただいた沖縄タイムス社の磯野直氏、傷病鳥保護に関して有益な助言を得た沖縄こどもの国（動物園）金城輝雄獣医師、文献の入手と本報告のまとめに有益な助言をいただいた沖縄大学教授の中村和雄博士、鳥類研究家の梶田学氏、調査に協力していただいた沖縄県立博物館職員（非常勤）の城間恒宏氏に感謝申し上げる。

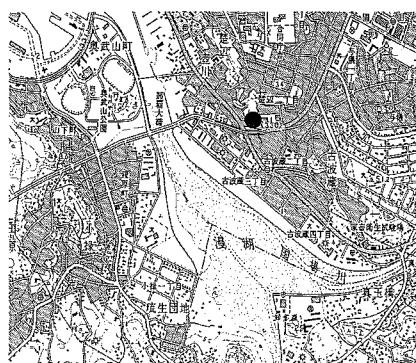
図1. ツミ及びリュウキュウサンショウクイの営巣地（●印）



①ツミの営巣地（1）（宜野湾市長田）



②ツミの営巣地（2）（那覇市楚辺）



（国土地理院発行25000分の1の地形図改変）

③リュウキュウサンショウクイの営巣地（読谷村伊良皆）



調査地概要及び調査方法

主たる調査地の範囲は図1に示したように、沖縄島南部の那覇市、中部の宜野湾市と読谷村の市街地である。調査は営巣状況の直接観察と、営巣木の特定、直径巻き尺による胸高直径の計測や測高管による樹高や巣高等の計測を行った。なお、詳細な営巣地及び営巣環境、調査方法等については、各鳥類によって異なるので、以下にツミ及びリュウキュウサンンショウクイと鳥類別に分けて、調査概要や営巣状況としてまとめて示した。

1. ツミの営巣地及び調査概要

(1) 宜野湾市内におけるツミの繁殖

本地域では2000年5月27日の夕刻5:30頃、市内長田地区の県道沿いの電線にとまる成鳥(雌)を確認し、その周辺地域での営巣の可能性が考えられたため、隣接する街路樹や屋敷林を探索した結果、造巣を確認した(図1-①)。

営巣箇所は県道32線沿いに植栽された街路樹上で、樹種はホルトノキであった。そのホルトノキは樹高が5.6m、胸高直径21cmで、巣は高さ5.15mの位置にあった(写真1, 2)。



写真1, ツミの営巣地環境 (1)
(宜野湾市長田)

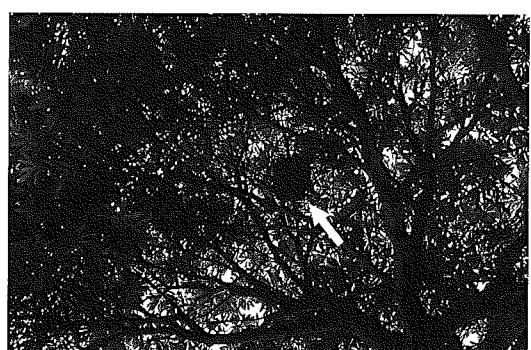


写真2, ツミの営巣場所 (2)
(宜野湾市長田)

(2) 那覇市内におけるツミの繁殖

ツミの営巣が確認された場所は、那覇市楚辺2丁目に所在する沖縄県経済連農協会館(通称農協会館)前の緑地である(図1-②)。営巣が確認された期日は、2000年6月20日で、営巣地近くに居住する読者より、地元新聞社への取材依頼があった。しかしながら、翌日行ってみるとすでに巣立ち後であったという(磯野直氏私信)。

営巣木は国道330号線と国道329号線が交叉し、県道221号線が高架道として立体交差する小波蔵交差点西側に所在していた。その営巣木は、胸高直径63cm、樹高10.4mのデイゴで、地上から高さ8.7mの太い枝先に営巣が見られた(写真3, 4)。

同営巣地周辺の環境は、国道と県道に挟まれるようにアカギ、モモタマナ、ガジュマル、

デイゴ、ホウオウボク、フクギ、ホルトノキ、ビロウなど26種の樹木が人為的に植栽された緑地帯となっている。

筆者は6月22日から同所で観察した結果、巣立ち間もない亜成鳥4個体が確認された。亜成鳥4個体は、それぞれ分散して木立にとまり、親鳥からの給餌を待っている様子であった（写真5）が、その内1個体は14時20分頃に親鳥の運んだスズメを採食した（写真6）。また、別の亜成鳥1個体は自力で林内に生息していたリュウキュウアブラゼミを捕食した。

ツミの営巣調査は、同会館周辺において2000年6月22日から2000年7月12日までの期間に、延べ5回にわたって調査を実施したが、7月12日以降亜成鳥の姿を確認できず、営巣地より分散したものと思われたことから、その後の調査は行っていない。

なお、本地域では本種の他に、シロガシラ、ヒヨドリ*Hypsipetes amaurotis pryeri*、メジロ*Zosterops japonicus loochooensis*の3種の留鳥が観察された。

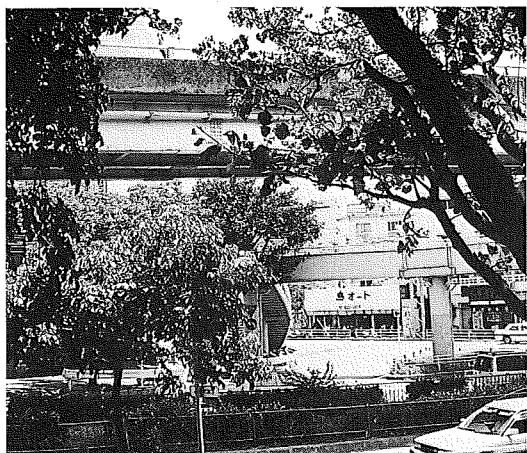


写真3, ツミの営巣地環境 (3)
(那覇市楚辺)

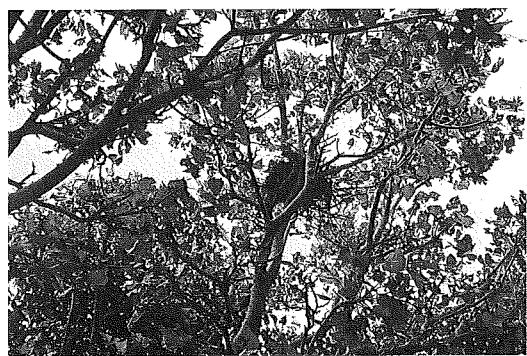


写真4, ツミの営巣場所 (4)
(那覇市楚辺)



写真5, ツミの亜成鳥
(那覇市楚辺)



写真6, スズメの採食
(那覇市楚辺)

2. リュウキュウサンショウクイの営巣環境と調査概要

本種の営巣を確認したのは、2000年5月2日の夕刻で、図1に示したように、沖縄島中部の読谷村伊良皆であった（図1-③）。その後営巣環境、営巣木の概要（樹高、胸高直径など）等について調査を実施した。また、育雛中の巣については、直接観察を行い、雛の数や育雛活動等を記録した。

営巣場所は同村伊良皆にある県立高校正門の真上で（写真7）、正門脇に植栽された樹高10.20m、胸高直径71.5cmのホウオウボクに、地上から5.4mの高さに営巣が確認された。同正門前の道路は県道6号線で、交通量の多い場所である。また、校門周辺にはモクマオウやガジュマルの大木のほか、街路樹としてホルトノキが植栽されている環境であった。

営巣が確認された時点で、巣内には雛3個体が確認された（写真8）。その後5月4日の早朝7時に観察すると、雛はまだ巣内におり3個体が確認された。しかし、その日の夕刻17時頃に再び巣内を観察すると、雛は確認できず巣立ったものと思われた。

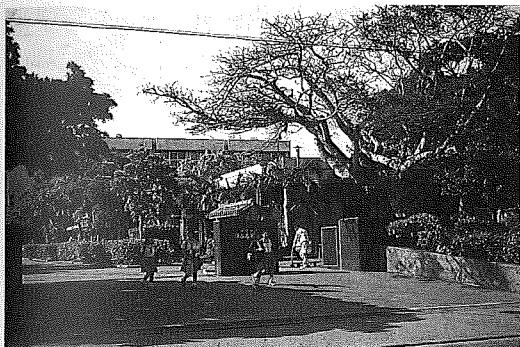


写真7 リュウキュウサンショウクイの営巣場所



写真8 巣内の雛

調査結果と考察

1. ツミの市街地における繁殖

沖縄県内では嵩原・渡久地（1997）によって、那覇市や浦添市などの人口の密集する市街地で本種が繁殖することが知られている。したがって、今回の営巣確認はこの状況を追認する例であろう。

今回営巣地となった場所は、市街地における道路整備に伴う付帯的で人工的に創出された緑地帯であった。その緑地には成鳥や巣立ち間もない亜成鳥の他に、留鳥として生息するメジロやヒヨドリの2種の採餌行動が確認され、同所的な場所利用が認められた。また、人家近くに生息するスズメ *Passer montanus saturatus* が親鳥により捕獲され餌として運ばれていた。また、アブラゼミも捕食された。したがって、本種はこれらの市街地に生息する留鳥や昆虫などの小動物を餌資源として、市街地に適応し繁殖活動を行っているものと思われた。

2. リュウキュウサンンショウクイの市街地における繁殖

本種は本来森林地域を主たる生息地としている種であり、森林の多い沖縄島北部の国頭地域では日常的に見られる。しかしながら、本種の市街地における繁殖確認例は、これまでに知られていないものと思われる。

今回確認された本種の営巣した場所は、森林地域から大きくはずれた県立学校敷地内にあり、車の行き交う交通量の多い県道に面している市街地であった。しかも、営巣地が生徒の登下校の際に利用される校門の真上で、人の出入りが頻繁に行われる場所でもある。このことから、本種が人に警戒することなく、都市鳥化してきている傾向が認められる。

なお、本種については沖縄島南部の那覇市首里大中町に所在する沖縄県立博物館の構内でも繁殖時期の2000年夏季に番で確認しており（嵩原未発表）、県立博物館周辺でも繁殖している可能性がある。また、沖縄島南部の西原町においても、本種の巣立ち間もない亜成鳥が傷病鳥として保護され（金城輝男 私信）、その後死亡している。

したがって、豊かな森林環境を有する沖縄島北部地域から、さらに中南部の市街地化した緑地面積の少ない地域にまで生息分布を広げてきているものと思われる。

<引用文献>

- バーダー編集部 1999. 都市で暮らす鳥. バーダー10月号.
- 土橋信夫 1994. 東京都板橋区でのツミの繁殖. 「都市鳥研究会会誌」11 (1) 13-18.
- 唐沢孝一 1987. マン・ウォッチングする都会の野鳥たち, 草思社.
- 唐沢孝一 1992. 全国41都市の都市鳥の繁殖状況のまとめ. 「都市鳥研究会会誌」9 (2) 84-97.
- 川内博 1997. 大都會を生きる野鳥たち. 地人書館. 245pp.
- 喜納幹雄 1995. イソヒヨドリの繁殖行動及びヒナ分けについて. 琉球大学理学部修士論文. 53pp.
- 金城常雄 1993. 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ *Pycnonotus sinensis* の分布域の拡大と生態的特性. 九病虫研報39:119-123.
- 金城常雄・瑞慶山浩 1996. 沖縄本島に侵入したシロガシラ. 鳥獣害とその対策、植物防疫特別増刊号 (No.2). 日本植物防疫協会.
- 三島冬嗣 1962. 南部琉球諸島のツミ(新亜種)とクロアジサシの亜種名について. *Tori* 17(79/80) : 219-221.
- 野口淳平 1988. 町田市住宅地でのツミの繁殖. 「都市鳥研究会会誌」5 (2) 35-36.
- 嶺井千夏 1994. イソヒヨドリの子育て行動. 琉球大学理学部卒業研究. 28pp.
- 嵩原建二・渡久地政武 1997. 沖縄島南部の市街地で繁殖する鳥類. 沖縄県立博物館紀要 第23号 33-54.
- 日本鳥学会 2000. 日本鳥目録改訂第6版. 日本鳥学会. 345pp.